

○プログラム（コース）名

- ①呼吸器内科専門研修コース（院内・院外）
- ②呼吸器内科大学院コース

○プログラムの概要

呼吸器系領域の疾患は、肺特有の疾患だけでなく循環器系、自己免疫疾患、神経など他領域疾患との関わりも多く、また炎症性、免疫関連性肺疾患から腫瘍性疾患、呼吸生理に関わる疾患、感染症性肺疾患まで多岐にわたり、日常診療の中でも遭遇する機会の多い領域であります。また、呼吸器内科医は、若い医師も多くなりつつありますが、疾患の多さに比し循環器内科、消化器内科医の三分の一という不足している状況が続いています。後期研修では、初期研修で身につけた基本的事項をもとに、呼吸器疾患に対する診断、治療の基本的な知識、考え方、診療技術を習得することを中心に、呼吸器専門領域への更なるステップアップを目標としています。具体的には大きく分けて専門研修コースと大学院コースの4年間を設定し、原則的に後期研修前期1年は共通コースとし、後期3年は別々のプログラムで進みます。また後期研修終了後、海外留学先もありますので希望者には適宜対応いたします。

○年度毎の研修内容

◇後期研修前期（卒後3年目）

新臨床研修制度では、プライマリーケアを中心とした研修が主体であり、また施設によっては内科の中でも選択希望性であることから、内科学会認定内科医を取得するためには症例数として不十分です。従って後期研修前期では、呼吸器系の研修を積みながら呼吸器系以外の内科疾患についても広く研修する意味で、希望があれば院内での各診療科はもとより、関連病院（研修認定施設）への1年間の出向を調整いたします。

◇後期研修後期（卒後4年目から6年目）

① 専門研修コース

多くの呼吸器系疾患を担当しながら、呼吸生理学的検査の理解、気管支内視鏡、胸腔鏡等の検査手技と解釈、人工呼吸管理法について習得することを目標とします。また胸部エックス線画像、胸部CT画像の読影は、単なる画像読影にとどまらず、呼吸機能検査や病態把握につながる機能的読影の習得を目指していきます。特に多い症例としては、肺癌、特発性間質性肺炎、膠原病肺、COPD、肺炎などです。

呼吸器関係の勉強会の主なものとして、以下のものがあります。

YCC (young chest conference) は、研修医、若手呼吸器専門医を対象とした画像と病理の勉強会です。関係施設は、東京医科大学呼吸器内科、国立国際医療センター、聖路加国際病院呼吸器内科、虎ノ門病院呼吸器科、関東中央病院、東邦大学医学部呼吸器内科、杏林大学医学部呼吸器内科で各施設の研修医、若手呼吸器専門医が参加して活発に議論する会となっています。その他、代表的なものに、臨床病理検討会（東京医科大学、東京医科歯科大学、順天堂大学、聖路加国際病院、虎ノ門病院、日赤医療センター、国立国際医療センター、東京通信病院持ち回り合同検討会）、稀少肺疾患の臨床呼吸器検討会（東京医科大学、日本医科大学、順天堂大学、東京大学、東京慈恵会医科大学、聖路加国際病院、虎ノ門病院、日赤医療センター、国立国際医療センター、東京通信病院の持ち回り合同検討会）などがあります。

また興味ある症例については、日本呼吸器学会関東地方会、日本内科学会地方会等で発表し、症例報告として論文としてまとめる指導を行っております。

② 大学院コース

呼吸器系の疾患の病態、治療に関する研究を通して呼吸器臨床のより深い見方を習得することを目標とします。

現在学内の大学院生3名と中国上海からの留学生1名がおり、今秋に東京医科歯科大学からの大学院生1名も受け入れる予定です。

このコースは、最大で1年間、研究生活に集中する期間を設けています。研究の結果として海外雑誌へ論文への投稿と学位取得があります。研究の領域は、肺癌の増殖と治療についての細胞生物学的、分子生物学的研究ならびに遺伝子治療。間質性肺炎、COPD、気管支喘息における炎症と修復再生機構の分子生物学的、分子遺伝学的研究。より臨床に近い研究として肺、末梢気道と肺動脈領域を中心とした非侵襲的評価法の研究とこの方法を用いた血液内科における骨髄移植後のGVHDに合併する閉塞性細気管支炎の早期診断法の確立に向けての研究にも取り組んでおります。

大学の枠を超えた交流会として、毎年夏に伊豆半島で寝食をともにしながらお互いの研究についての発表会を開催しております（参加大学：東京医科大学、順天堂大学、東京大学、京都大学、東北大学、和歌山県立医科大学、獨協医科大学、名古屋保健衛生大学等）。海外での発表会は、米国胸部医学会総会、欧州胸部医学会、アジア太平洋胸部医学会等です。

以上のコースに関しては、研修中あるいは研修後に変更することは可能ですし、学位取得後、海外留学への道もひらかれております。現在1名 米国 MD Anderson Cancer Institute へ留学しています。

○呼吸器専門研修関連施設

N T T 東日本病院呼吸器科、 独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器科、 公立昭和病院呼吸器感染症科、 救命救急部、 東京通信病院呼吸器内科

○海外留学先施設

National Heart Lung and Blood Institute (NHLBI), Pulmonary Branch (米国, MD)

Cornell University, Pulmonary and Critical Care Medicine (米国, NY)

Harvard University Massachusetts General Hospital, Oncology (米国, MA)

Cleveland Clinic, Pulmonary Medicine (米国, OH)

Cincinnati Children's Hospital Medical Center, Pulmonary Biology (米国, OH)

National Heart Lung Institute, University of London, Thoracic Medicine (英国, London)

University of British Columbia, Pulmonary Medicine (カナダ, バンクーバー)

○週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
8:00	病棟勤務	病棟勤務	抄読会（隔週）	病棟勤務	病棟勤務	病棟勤務
8:30			モーニングカンファランス 新患紹介（6F 第1会議室 or 18E 病棟）			
10:00			診療科長 病棟廻診 （8F→18E→16W）			
12:00						
13:00	気管支鏡検査	病棟勤務	病棟勤務	気管支鏡検査	病棟勤務	（特別講演など）
15:00	病棟勤務			病棟勤務		
16:00	呼吸器カンファランス（5F 第3ゼミナル室）			症例検討会 ※3 放射線、病理合同カンファランス（6F 第1会議室）		
17:30						

※1：呼吸器系に限らず、Lancet、NEJM など著明な国内外雑誌のトピックを紹介します。毎月1回行ないます。

※2：呼吸器領域のエキスパートによる up to date な内容の講演会です。年 4 回行ないます。

※3：興味深い症例を提示し、画像および病理のエキスパートを交えた症例検討会です。毎月 1 回行ないます。

○取得できる資格

日本内科学会認定内科医・専門医

日本呼吸器学会専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医など

○プログラム終了の評価・認定方法

上記に掲げた専門医や学位を取得することによってプログラム終了と評価いたします。

○処遇・待遇

各病院の規定に従います。

○その他

規模はそれほど大きくありませんが、アットホームな雰囲気です。皆和気あいあいと仕事をしております。また研修は出身大学に関係なく機会均等に行なうことができますし、上記のプログラム以外にも、例えば実家が消化器科で開業していて消化器内視鏡検査を勉強したい場合、学内外での研修を受けられるよう個々の希望に添えるように適宜対応いたします。